

第95回 全国大学獣医学関係代表者協議会記録(案)

日 時 平成23年9月22日(水) 10:00~13:30

場 所 大阪府立大学りんくうキャンパス5階「多目的ホール」(A503)

出席者(会長) 吉川泰弘
 (北海道大学) 伊藤茂男、木村和弘、橋本善春
 (帯広畜産大学) 北村延夫、宮原和郎、滄木孝弘
 (岩手大学) 居在家義昭、山本欣郎、橋爪一善
 (東京大学) 西原真杉、尾崎博、九郎丸正道、中山裕之、佐々木伸雄
 (東京農工大学) 白井淳資、三森国敏
 (岐阜大学) 北川均、杉山誠、鈴木正嗣
 (鳥取大学) 竹内崇、村瀬敏之、菱沼貢
 (山口大学) 佐藤宏、岩田祐之、田浦保穂、佐藤晃一
 (宮崎大学) 浅沼武敏、池田正浩
 (鹿児島大学) 宮本篤、大和修
 (大阪府立大学) 稲葉俊夫、笹井和美、小崎俊司、久保喜平
 (酪農学園大学) 林正信、田村豊、澤泉康晴、竹花一成、桐澤力雄
 (北里大学) 伊藤伸彦、高井伸二、原幸男、渡辺清隆
 (麻布大学) 政岡俊夫、浅利昌男、有嶋和義、土屋亮
 (日本大学) 酒井健夫、野上貞雄、杉谷博士、津曲茂久、丸山総一
 (日本獣医生命科学大学) 今井壮一、新井敏郎、河上栄一、左向敏紀
 (特別出席) 文部科学省 高等教育局専門教育課 柿澤雄二、名子学
 農林水産省 消費・安全局畜産安全管理課 佐々木勝憲
 社団法人日本獣医師会事務局次長 駒田逸哉
 (事務局) 日本獣医生命科学大学 古山泰二、及川夏都美

以上 63名

開会に先立ち、配布資料・議事日程の確認が行なわれた。

農林水産省消費・安全局畜産安全管理課 佐々木勝憲課長補佐、社団法人日本獣医師会事務局 駒田逸哉次長より来賓の挨拶の後、議事に入った。

議 事

I. 確認事項

1. 平成23年度各大学代表者一覧及び出席者名簿の確認について

平成23年度各大学代表者一覧に基づき連絡先等及び出席者名簿の確認がなされ、出席者名簿の一部修正の上確認された。

II. 報告事項

1. 私立獣医科大学協会報告(日本大学 酒井会長)

1) 第6次相互評価について

第6次相互評価を酪農学園大学林教授に委員長を依頼し取り纏めを終了した。評価は「私立獣医科大学における臨床ならびに衛生学実習に関する相互評価」であり、教員の組織、教育の支援体

制、教育課程、実習内容についての詳細な調査結果が公表された。

2) 参加型臨床実習のガイドラインの取り纏めについて

「参加型臨床実習」の基本方針の4条件（① 学生に共用される診療範囲、② 指導教員の要件、③ 学生の事前評価、④ 動物所有者の同意）に対して、私立獣医5大学間では共用試験が導入されるまでの間、a. 学生と動物の安全性の確保、b. 診療行為の水準区分けを明確化すること等を含めて臨床実習の質保証を行っていくことが決定した。

3) 私立獣医学教育への財政支援の要請について

私立獣医学教育の国際水準化に向けて、関係機関への財政支援の要請活動を行っていくにあたり、全国大学獣医学関係代表者協議会（以下「全国協議会」という）の協力が必要であることが要請された。

4) 全国協議会の検討事項への取り組みに関する要請について

現在進行しているコアカリキュラム、共用試験について、到達目標の項目の科目間調整、共同教育課程・共同学部での新カリキュラムとコアカリキュラムの関係、第三者評価あるいは情報公開への対応、より具体的な共用試験の在り方の明示などが要請された。

III. 協議事項

1. 第94回全国大学獣医学関係代表者協議会記録（案）の確認について

第94回全国大学獣医学関係代表者協議会記録（平成23年6月29日開催）の確認が行われ、一部修正の上承認された。

2. 全国大学獣医学関係代表者協議会規約の改正について

- 1) 第11条の委員会について：各種委員会を条文に規定すると委員会の改廃・設置の都度規約を改正する必要が生じるため獣医学教育改善に関わる委員会と改正し、その中にワーキンググループを含めることとし、承認された。
- 2) 第12条の運営経費について：ホームページの更新・維持・管理費、また、ワーキンググループの活動経費の支援等を鑑み、運営経費を3万円から5万円に改定することが提案され、承認された。

3. 全国協議会獣医学教育改善宣言の採択について

吉川会長より前回の声明文の記載について一部修正した点の説明がなされ、全国協議会として修正された声明文が正式に承認された。本声明文は今後冊子体として関係団体に配布されるとともに、ホームページ、日本獣医学会誌、獣医師会報、獣医学振興等に掲載する予定である。

4. 全国協議会の運営形態の変更について

吉川会長より全国協議会の新体制について、委員会の下に新たに次のワーキンググループを設置するとともに、事務局の体制も変更することが提案され、承認された。

<ワーキンググループ>

- ① コアカリキュラム検討ワーキンググループ 尾崎座長（東京大学）
- ② 共用試験準備ワーキンググループ 高井座長（北里大学）
- ③ 共通テキストワーキンググループ 橋本座長（北海道大学）
- ④ 家畜病院ワーキンググループ 佐々木座長（東京大学）
- ⑤ 全国共同実習ワーキンググループ 北川座長（岐阜大学）
- ⑥ 第三者評価ワーキンググループ 酒井座長（日本大学）
- ⑦ 大学院制度ワーキンググループの座長については検討中

<事務局>

総務：久和茂先生（東京大学：事務局長）、堀正敏先生（東京大学）
広報：佐藤晃一先生（山口大学）、内田和幸先生（東京大学）
庶務（事務連絡）：古山泰二、及川夏都美（日本獣医生命科学大学）

5. 各ワーキンググループからの報告

1) コアカリキュラム検討ワーキンググループ（尾崎座長）

資料⑤～⑦に沿って、今回作成されたコアカリの定義について改めて説明がなされた。全教育項目の2/3をコアカリ項目とする意味や、共用試験出題範囲について解説されると共に、共用テキストや e-learning システム、全国共同実習事業などのソフト面からの教育改善策を利用したコアカリ教育項目達成のための対応策についても説明された。

2) コアカリキュラム小委員会（尾崎座長）

尾崎座長より、平成23年9月16日に開催された小委員会での議事について下記の様な報告がなされた。

① 全国16大学で実施したコアカリ項目見直しに対するアンケート調査結果について

14大学からアンケートへの回答がなされた。本コアカリは科目縦断的スタイルを取っており、科目間での重複項目は相互に認めている。重複項目以外に「非コアである」と過半数の大学より指摘された項目はなく、現状の全ての項目がコアであることが改めて全大学の教員から認められた。

② 共用試験範囲のコアカリ項目の選定について

コアカリ項目に共用試験には出題されない項目を新たに△印として選定することにし、各分野別担当者と協議の上12月までに作業を完了することとした。

③ 共用試験に対応したコアカリ項目の一部修正について

共用試験範囲のコアカリ項目の選定にあたり、参加型臨床実習実施に十分な質保証ができるよう、特に臓器別臨床科目の一般目標や到達目標（冒頭の総論部分）を整備修正する。

④ 平成24年度版の出版について

上記②、③などの改訂を加えた平成24年度版の獣医学教育モデル・コアカリキュラムを来年3月までに出版する予定。初版は文部科学省の事業費で出版したことから無料での配布となったが、24年度版に関してはインター・ズー社から1冊1000円で出版する予定となっている。同時に電子版の出版も予定しており、売上げ金の印税分は全国協議会と文部科学省にそれぞれ貢献度に比例して支払われる予定である。

⑤ キーワードの整備について

コアカリ作成過程で列挙された各項目のキーワードの整備作業については来年度以降実施予定。

⑥ コアカリと国家試験出題基準との整合性について

来年度以降コアカリ小委員会で検討する予定であるが、本格的な議論はコアカリがもう少し浸透してから行う。

3) 獣医学共用試験準備ワーキンググループ（高井座長）

高井座長より、平成23年7月22日（金）開催の第2回獣医学共用試験準備委員会幹事会議事録に基づき、次のとおり説明があった。

〔報告事項〕

① 酪農学園大学の遠藤先生を委員に追加することについて了承した。

② 6月29日開催の全国協議会における議題等の報告がなされた。

〔議題〕

① 準備委員会の今後の活動について

・16大学から選出された準備委員と各大学代表者（学科長・学科主任）の各大学最低2名に参加頂き、準備委員会の総会を12月末までに開催予定である。

・16大学間における共用試験に対する認識を共通化することを目的として、医学部共用試験にお

ける CBT 試験の概要、OSCE 試験の概要について 2 名に講演を依頼し、幹事会委員と同じような体験をして頂く。

- ・共用試験に至る工程案に沿って準備委員会と各検討小委員会（WG）を立ち上げることにした。

② 各種委員会の立ち上げについて

- ・共用試験実施委員会
 - ・トライアル実施委員会（日本大学 鎌田先生）
 - ・広報委員会（CBT のシステム、HP など）（酪農学園大学 山下先生、遠藤先生）
 - ・CBT 問題作成委員会（フォーマットなど）（麻布大学 浅井先生、岐阜大学 杉山先生）
 - ・OSCE 準備委員会（日本獣医生命科学大学 新井先生、岐阜大学 北川先生）
 - ・CBT 問題依頼委員会（16 大学委員が各大学を担当）
 - ・CBT 問題内容検討委員会（コアカリ委員会とコアカリ科目担当委員）
- 高井座長より、各種委員会の立ち上げについて提案があり、全国協議会として承認した。また、10 月に科研費基盤 A の申請を行うため協力依頼があった。

4) 共通テキストワーキンググループ（橋本座長）

橋本座長より、獣医学共通テキスト作成の目的・主旨について、および e-learning システムの進捗状況について下記の様に説明がなされた。

- ・「獣医学共通テキスト」は、獣医師養成大学としてその教育内容に関する **Minimum Requirement** を国内外に示す教材として、これからの獣医学教育遂行のためにモデル・コアカリキュラムと同様に必要である。
- ・今後導入予定の「獣医学共用試験」のための学習ガイドラインを獣医学生と教員に提供し、共用試験を受験するにあたって、必要学習到達レベルを獣医学生に提示する役割をもつ。
- ・「獣医学共通テキスト」は、モデル・コアカリキュラムが示す総ての一般目標と到達目標に関する記載を含み、演習問題を具備していることが望ましい。
- ・各教科目が受け持つ教育範囲や教育様態が異なるため、刊行時期は異なってもよい。編集作業が整った教科目から刊行していく。
- ・「獣医学共通テキスト」の刊行は、我が国の獣医学教育の遂行とその水準向上に直接責任を有する全国協議会がその決定事項としてガイドラインを示す役割を果たす。
- ・「e ラーニングコンテンツ作成状況」に基づき、22 のコンテンツの作成状況について説明があった（資料⑩）。

5) 全国共同実習ワーキンググループ（北川座長）

北川座長より、平成 23 年度から 3 年間の予定で「口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業」が選定されたことが報告された。本事業は「分野 1：産業動物診療分野における全国の実習システムの構築（代表校：岐阜大学、協力校：酪農学園大学、北里大学、鹿児島大学）」と「分野 2：家畜伝染病・人獣共通感染症等対策分野における全国の実習システムの構築（代表校：東京大学、協力校：岩手大学、東京農工大学、宮崎大学）」で構成され、チーフコーディネーターとして岐阜大学の小森先生と東京大学の杉浦先生がそれぞれ中心となって展開される。

問題点として現行としてすでに稼働している臨床実習やインターンシップとの調整、コアとアドバンスどちらに位置づけるかなどについて意見交換がなされ、今後の課題とされた。

6) 第三者評価ワーキンググループ（酒井座長）

酒井座長より、具体的な委員会の構成、活動計画等について、次回の全国協議会までに方針を取り決め報告したいとの発言がなされた。

7) 家畜病院ワーキンググループ (佐々木座長)

佐々木座長より資料⑬に基づき現在の進捗状況と問題点について報告がなされた。参加型臨床実習にむけた各大学のガイドライン作成状況に関しては、私立5大学ではまもなく統一のガイドラインが完成する。一方国公立大学については現在討議中であり、来春の全国動物診療施設運営協議会でガイドラインがまとめられる予定である。

問題点として挙げられた点は、臨床指導教員数が少ないこと、飼い主への告知の取り方、野外診療における外部組織との連携、指導獣医師に関する検討、などである。

また、参加型臨床実習を具現化していくためには、これを指導担当していく臨床教員(常勤、特任)やサポートスタッフの確保は必須であり、そのための予算獲得や待遇改善請求、民間病院臨床医の協力体制の構築などに関して全国協議会のサポートが必要であることが要望として出され、吉川会長からもワーキンググループの重要議題として取り上げると共に、全国協議会としても対外的に活動していく必要性が述べられた。

8) ホームページ開設について (広報担当 山口大学 佐藤先生)

広報担当の佐藤先生より資料⑭に基づき全国協議会のHPのリニューアル開設について説明がなされた。また、今後、関連大学からのホームページ維持、作成のための人員(アルバイト)確保の要請と、国公立協議会と私立協議会の議事等についての掲載についても提案がなされた。

6. 次回全国協議会日程について

次回開催は、平成24年3月26日(月) 午前10時から午後1時まで東京大学で開催される旨、確認された。

以 上